

サイエンスコミュニケーション のひろがり

シームレス・カルチャー
縫い目のない文化
を現実にするため

Seamless Culture Through Science Communication



この世には、文系と理系、自然科学と人文科学、サイエンスとアートなどという分け方が存在し、それぞれの間には深い溝があると言われていいます。しかし、たとえば文系と理系それぞれの中にもたくさんの溝が存在します。ならばいっそのこと、すべての溝を埋めて、継ぎ目のない文化(シームレス・カルチャー)を実現してみませんか。それがまた、理科離れを解消する最短の道となることでしょう。今回のワークショップでは、英米韓日の優れたサイエンスコミュニケーターをお招きし、その方策について話し合います。サイエンスコミュニケーションに関心をお持ちの多方面の方々のご参加をお待ちします。

主催：文部科学省 科学技術政策研究所

2005年2月7日(月) 9:45~18:00

コクヨホール(交通:JR品川駅港南口より徒歩4分)

対象：この分野に関心をお持ちの専門学校生・大学生以上の方

先着250名 無料 *日英同時通訳付*

◇お問い合わせ・申し込み先：政策研国際コロキウム事務局(株サイマル・インターナショナル内)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-25-5 虎ノ門34MTビル 1F

Email: nistep@simul.co.jp TEL: 03-3539-4502 FAX: 03-3539-4533

◇申し込み方法：上記事務局宛に、Email、ファクスまたはハガキで、住所・氏名・年齢・職業を明記の上、オプションセッション参加希望も含めてお申し込み下さい。後ほど参加票をお届けします。

◇科学技術政策研究所ホームページ <http://www.nistep.go.jp>

◇参加申し込み締め切り日：2005年1月21日(金)

司会進行

黒山 ひろ美 (テレビ番組キャスター)

基調講演1

オーブリー・マニング *Aubrey Manning*

「好奇と歓喜——科学は文化の一部となる」 エジンバラ大学名誉教授。動物行動学者。

BBC - Landscape Mysteriesのプレゼンター。著書『動物行動学入門』

基調講演2

リン・マーギュリス *Lynn Margulis*

「知の方法としての科学——進化の叙事詩」 マサチューセッツ大学アマースト校教授。細胞生物学者。

細胞共生説の提唱者。著書『細胞の共生進化』『共生生命体の30億年』ほか

第1セッション 「縫い目のない文化を語る」

スティーヴン・ミラー *Steven Miller* (ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジ教授)

「ヨーロッパのサイエンスコミュニケーション——2つの文化問題を越えて」

チョ・スックギョ *Sook-Kyoung Cho* (韓国科学財団国際部長)

「韓国における科学技術公衆理解——韓国科学財団の取り組みを中心に」

ドロン・ウェーバー *Doron Weber* (スローン財団公衆科学理解増進プログラムマネージャー)

「2つの文化は解消できるか——スローン財団の取り組み」

第2セッション 「科学が絡むともっとおもしろい？」

イラン・チャバイ *Ilan Chabay* (ニュー・キューオリティショップ代表)

「子供のカルチャーに科学を持ち込む——熱中できるロールプレイングコンピュータゲームを窓口に」

渡辺 政隆 (科学技術政策研究所上席研究官)

「おしゃれな科学」

木村 政司 (日本大学芸術学部教授)

「アート + サイエンス = カルチャー」

第3セッション 「科学のひらめきとかがやき」

コーディネーター

高柳 雄一 (電気通信大学教授)

ゲスト：中谷 日出 (NHK解説委員)

稲蔭 正彦 (慶應義塾大学環境情報学部教授)

漆畑 直樹 (株式会社ピクセン) ほか

オプショナルセッション「科学茶房」 18:00～19:30

ゲスト多数

(コクヨホール・レセプション会場にて、ドリンク片手に楽しく科学を語ります。ふるってご参加下さい。)